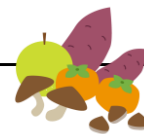


コーディネーターだより

令和3年9月28日

No. 3



今回は、本校教員が夏休み中に取り組んだ研修の一部を報告いたします。

特別支援教育研修会(オンライン開催・地域連携部)



7月29日(木)に騎西特別支援学校・久喜市教育委員会と共催で、特別支援教育研修会を開催しました。本校として、地域の先生方向けの研修会開催は初めてでしたが、久喜市内小中学校の先生方をはじめ、学区域内の幼稚園・保育園や小中学校の先生方、学童の職員の方など多くの方に参加をしていただきました。本校の教員も全体研修に位置づけ、地域の先生方と一緒に学びました。

講師に聖学院大学心理福祉学部教授の大橋良枝先生をお招きし、「難しい育ちの子どもを抱え育てる支援チーム～愛着障害を中心に～」をテーマに御講演いただきました。講演から愛着に課題を抱えた児童生徒についての基本的な理解を深めるとともに、特別な支援を要する児童生徒及びその家族と関わる教員や支援者がチームになって支援にあたることの大切さを改めて学ぶことができました。

【感想】

- ・子どもの行動に目がいってしまいがちですが、なぜそのような行動をとるのか、子どもの伝えたいメッセージは何なのか、行動の背景にある気持ちに寄り添い、子どもたちが安心して学べるよう支援していきたいと思いました。
- ・コミュニケーションや洞察力、思いやりの大切さを改めて理解することができました。周りの先生方と声を掛け合いながら悩みを共有して、指導の方向性を確認していきたいと思います。
- ・愛着障害は、不安や心配が取り除かれていないことから起こるのだと理解することができました。事例から複数の先生方で対応すること、一人で抱え込まないことの大切さを改めて学ぶことができました。2学期からの実践に生かしていきたいと思います。
- ・小学校教員をやっていて今まで「どうしたら子供にとって正解だったのか」と悩んでいたことがありました。大橋先生の講義の中で、「愛着障害をもつ子供から投げられる言葉にならないモヤっとしたもの」という話が出た際には、「分かる!」と講義中にも関わらず声に出してしまいました。大変興味深いお話でもっともっと聞きたかったです。
- ・特別支援学校の事例で、保育とは異なる部分もありましたが、奮闘している先生を一人にはしないことや、同僚とチームで子供たちの支援をしていくことの大切さや先生たちが子どもと向き合う時の心の持ち方など、保育にも活かせる内容もありました。有意義な研修の機会をありがとうございました。
- ・幼稚園教諭になって特別な配慮を必要とする子どもを担当することもあり、今回の研修はとても役に立ちました。自分一人で子供と関わるのではなく周りの助けを頂きながら一緒に見守っていくことや家庭の状況も丁寧に把握することが必要だと感じました。

今回研修した内容は、地域の先生方だけでなく、本校教員も日々の教育活動に生かし、充実した指導支援を行っていききたいと思います。来年度も地域のニーズに応えられるような研修会を企画・開催できるようにしていきたいと思います。

防災研修会(施設防災部)



7月30日(金)に施設防災部主催の研修会を開催しました。当日は、災害支援・防災教育コーディネーター/社会福祉士の宮崎賢哉先生を講師にお招きし、「災害に強い学校づくり～学校・家庭・地域のつながりをつくる」をテーマに御講義いただきました。

研修では、児童生徒を守る心構えや災害に強い学校づくりの4ステップ、地震防災ワークショップ「災害状況を想像する」など、大変中身の濃い研修内容ばかりでした。中でも「プロアクティブの原則」<(1)疑わしいときは行動せよ(2)最悪の事態を想定して行動せよ(3)空振りには許されるが、見逃しは許されない>のお話があり、一人一人が自分事に引き付けて考えていかなくてはならないことを改めて感じるとともに、学校全体で危機管理について今一度考えることができた、大変有意義な研修となりました。

【感想】

- ・研修の中でのワークショップでは、「ここはどうだろう?」「これはきちんとしておかないと危ない」という時にパニックになりそうだな等、色々な気づきがありました。いつ起こるか分からない災害に対して定期的に研修等を通して心構えをしておく必要があると感じました。
- ・講演の中で「普段できないことは、災害時にもできない」というようにあったが、毎年行っている避難訓練も様々な状況を想定して実施する必要があると感じました。避難後のそれぞれの動きなど大規模災害を想定しての検討を引き続き行っていく必要があると感じました。

人権研修会(研究部)



7月21日(水)に研究部主催の人権研修会として、「アサーション」をテーマに行いました。当日は、臨床心理の視点から「自分の権利も相手の権利も大切にしながら、互いを尊重し合うやり取りを目指すこと」がアサーションの本質であることを学んだ後、自身の表現の仕方がアサーションで言われている3つのタイプのどれにあてはまるのか、自己チェックをしました。その後、小グループに分かれて事例を元に、よりよい表現方法についての意見交換を行いました。

【感想】

- ・色々な先生方と意見交流することができ、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・アサーションのそれぞれの観点を知り、自分がどのタイプなのかを知れてよかったです。また、3つの事例でそれぞれの言い方を考え、それをみんなで見ると「こういう言い方している人いるな」「自分だったらこう言うな」と、人との関わりについて客観視できる、良い機会となりました。



自主研修会(研究部)



日頃の指導・支援を充実させていくために、それぞれの先生方の専門性を生かした教員間の学び合いの機会として、自主研修会(言葉の発達、身体の触れ方、音楽を通したやりとり、教材・教具について等)を行いました。今後も教員間の意見交換・実践交流を行い、「チーム久喜特」として専門性向上を図っていきたいと思います。